

私たちのナロジチ再生計画はいよいよスタートする。今年の春にはナロジチの荒野に菜の花のタネを播く。当初の規模は4ヘクタールと小さいが、ここで様々な実験を重ね、本格的な地域再生への道を作りたい。そのウクライナの現況はどうなっているのか調べた。

● ウクライナはバイオエネルギー・ラッシュ

1年前には想像もしなかった事態が今、ウクライナで進行中である。ウクライナ国内でも、また、ドイツやイタリア、アメリカなど西側諸国からも、ウクライナでの菜種ディーゼルを中心としたバイオエネルギー計画が次々と公表されている。過去数年間、ウクライナでは菜種栽培が盛んになってきた。ドイツをはじめEU諸国へバイオ・ジーゼル原料として輸出し外貨を稼ぐためである。現在は20万ヘクタールで菜種が栽培され、2005年には28万トンが収穫された。栽培技術が未熟で肥料がないなどで、単位収量は少なく今後の改善が必要とされている。栽培はほとんどリポフ、フメリニツキー、テルノポリといった西側に近い州で行われ、中央部に位置するジトミル州南部でも全体の2%が生産されている。ここに来て、ウクライナ国内での菜種ジーゼル燃料製造計画が活発になっている。輸送コスト削減と、ウクライナの安い労働力が西側諸国の魅力である。隣国オーストリアの企業は、大型プラントをポルタヴァ州とジトミル州に計画し行政府と交渉中、と昨年発表された。年間10万トンの生産を目指している。同じ頃、ドイツの企業がハリコフ州に大型バイオジーゼルプラントを計画し、7千万ユーロ投入する、と報道された。2008年には建設するという。私たちが計画しているジトミル州ナロジチ地区の隣のオブルチ地区はこれまでも菜種栽培をしてきたが、今新たにバイオエタノール工場の建設を計画中である。ウクライナ政府は、ガソリンにエタノール

混合を義務付ける法案を準備中で、それによれば、2007年度中にガソリンの2%に、2009年には4%混合を義務付けるという。エネルギー資源のないウクライナ政府は、バイオエネルギー推進に大きな期待をもち、国家的推進を目指している。

● ウクライナは菜種栽培の適地

ウクライナのバイオエネルギー推進には根拠がある。EU諸国に近く広大な農地があることである。環境先進国ドイツではすでにジーゼル車の2%が菜種ジーゼルで走っているが、国内での菜種栽培は飽和状態で土地がなくなっている。一方、ウクライナは60万Km²の国土の70%が農地で、全国で菜種栽培が可能である(日本の耕地面積は48000km²)。試算によれば、ウクライナの菜種生産能力は年間700万トンである。ウクライナはウラン以外に有効な国産エネルギーを持たず、将来のエネルギーは、バイオしかない、とウクライナの専門家も指摘している。最近「ウクライナのバイオジーゼル」という市場調査会社の本も出版され、バイオジーゼルへの期待は高まっている。

● ナロジチ再生計画に支援を

私たちの計画のユニークな所は、放射能除去とバイオジーゼル、バイオガス生産を一体化させ汚染地域を復活させる点にある。勿論ウクライナでも唯一の計画である。風は吹いている。足りないのは資金だけである。皆様の支援を仰ぎたい。

(河田)